

苦戦する子どもたちをどう援助するか

～チーム援助の考え方を活用して～ その1

不登校やいじめ、生徒指導上の問題など、学校現場では様々な問題が次々とおこり、その対応に追われています。今回からシリーズで、チームで取り組むための支援シートなどを紹介したいと思います。学級担任だけでなく、養護教諭や管理職、学校カウンセラー、保護者、外部機関の担当者等、苦戦する子どもの周りにいる人たちがチームを組んで援助することを始めてみませんか？

チーム援助とは

複数の援助者が、共通の目標をもって、役割分担しながら子どもの援助に当たること。
ある子どもに対して、いっしょに援助を行う人たちの集まりを“援助チーム”という。

チーム援助の話し合いの流れ

子どもの援助者(サポーター)が集まり、子どもの苦戦する状況についての**情報を収集**しながら、子どもに対する**援助方針を共有**し、**援助活動をまとめて**いきます。

1 情報を収集する

学校生活についての状況について

「いいところ」は？ その子どもの世界に入るための“心のドアの鍵”となるものです
「自助資源」「自分で自分を支えるもの」です

例:よく気がつく 友達にやさしい(性格面) ものを操作して理解するほうが得意(学習スタイル)
釣りが好き ペットと遊ぶ(リラックスすること) 大人と話せる お年寄りに親切 ムードメーカー(人とのつきあい方)
声優が好き 野球選手になりたい(将来の夢) 高校希望(進路)

「気になるところ」は？ その子どもの「援助ニーズ」 苦戦が見えるところです

例:国語の授業で集中しない 午前中の授業で出歩きが多い 急に成績が下がった(成績や学習の様子)
文章題や漢字の書き取りが苦手である(苦手・遅れが目立つ科目)
ちょっとした失敗を引きずる(性格面) からかわれやすい 仕切りたがる(人とのつきあい方)
登校しようと思うと頭痛や腹痛が起きて登校できない(体の症状)

「してみたこと」は？ 今までの援助経過(今まで行った援助 現在行っている援助)です

例:本人の希望にそった放課後の補習 できる問題が増え自信がついてきた(学習面)
担任による家庭訪問 少しずつ話ができるようになってきた
保健室や別室など、ゆったりできる居場所をつくった(情緒面 人間関係)
親がいっしょに遊ぶようにした 少しずつ体力がついてきた(健康面)

2 援助方針を共有する

この時点での目標と援助方針を決める。

～ 子どもの学校生活に焦点を当てた方針を ～



3 援助活動をまとめる

子どもへのチーム援助の具体的な案を立てる。

～ 「何を行うのか」「誰が行うのか」「いつからいつまで行うのか」～



この流れを分かりやすくまとめることができるのが、「援助チームシート」です。このシートについてと援助チームの構成メンバー、具体的な支援会議等については、次回号(～チーム援助の考え方を活用して～その2)でご紹介します。

<参考文献> 『チーム援助入門』石隈利紀・田村節子 (2003年 図書文化)

連絡先: 高知市教育研究所教育相談班 TEL: 088 - 832 - 4498・4497